

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年3月1日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから3月1日の原子力規制庁、定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

明日の委員会の定例会の議題は3つです。

議題1、原子力規制委員会の取組の公表、いわゆる3.11報告と呼んでいるものですが、これは毎年3月11日を前に、この時期に原子力規制委員会の今年度の取組を公表するというようにしていますので、それということになります。最終的には、いわゆる年次報告が6月に決定されますけれども、その速報みたいなものになります。

議題の2つ目が、令和3年度マネジメントレビューです。

これも毎年この時期に、今年度の業務とか組織のマネジメントの状況を報告ということになります。

内容は5つになっていまして、1つ目が、年度の業務計画の達成状況。

2つ目が、内部監査の結果。

3つ目が、要改善事項というものの報告。

4つ目が、IRRSへの対応の状況。

5つ目が、職員へのアンケートとかインタビューの結果というものになります。

議題の3つ目が、1Fのリスク低減目標マップ、これの2回目になります。

これは2月2日の委員会で一回議論をしまして、その後、1Fの監視評価検討会でも報告をしたというものの2回目となります。委員会とか監視評価検討会での意見を踏まえて修正されたものが今回諮られて決定されるという見込みになっています。

主な変更点は、固形状の放射性物質の保管管理についてということです。

あとは、委員会で、議題外のトピックスとして、柏崎刈羽の杭の状況について、今日出張に行っていますので、その本人から報告があります。資料が新しいものが出るということはなくて、東電が既に公表している資料を配りつつ、当日現場で見てきた状況などが報告されるということになります。

3月7日の（9）、デジタル安全保護系に関する民間規格の技術評価の検討チームです。

民間規格の技術評価は、毎年計画的にやっているものでありますけれども、このデジタル保護系については、前回1月25日に1回目をやりまして、そのときのコメント回答

などということになります。今回では結論にならず、まだ引き続きということになると聞いています。

最後に、資料にはないのですけれども、既に報道されていますけれども、今日の午前中、官房副長官から国会に対しまして国会同意人事の案が提示されたということがあります。国会で承認されれば、9月に就任する見込みということになっております。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

では、ヒロエさん。

○記者 共同通信のヒロエといいます。

最後に言われた、委員長が9月で退任されるという国会の人事案について受け止めに教えていただけますか。

○黒川総務課長 余り私が受け止めに語るべき立場ではないと思いますけれども、規制委員会ができて委員になられて、その後3期10年にわたって委員、また、委員長として御尽力いただいて重責を果たしていただいたということでもあります。

一方で、原子力規制委員会の組織としての安定性及び継続性を図る観点から、既に委員として重責を担っておられる山中委員に委員長になっていただきたいと考えたものということでもあります。

○記者 その山中委員ですけれども、現在は審査でどういうところを主にやっていたか、その辺りを教えていただけますか。

○黒川総務課長 山中委員が就任されたのが平成29年ですかね。平成29年に就任されました、そのときから一貫して原子力施設の新規制基準の審査を主に担ってこられております。そういうことなので、そのとき以降に許可されたものについては山中委員が中心になって審査されたということでもあります。どの施設がというのは、事実を見て、どのタイミングでどれがというのを改めて見ていただければと思いますけれども、最近許可されました島根とか女川辺りの審査を主に担当されておられたのかと思います。

○記者 あと、委員長は、この人事案に対してはどのような受け止めなのですか。

○黒川総務課長 それは委員長に聞いていただきたいと思います。

○記者 もう委員長には伝えているという状況なのですか。

○黒川総務課長 委員長は、ちょっと分かりませんが、いずれにしても報道とかは御覧になっているでしょうし、今日、内閣から提示されていますので、そのことは御存じなのだろうと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 では、カンダさん、お願いします。

○司会 時事通信のカンダです。

5年前のときは、当日に、当時、更田さんが委員長になったときは、更田さんのコメントが出たのですけれども、その御用意というのは今日は。山中さんに関してです。

○黒川総務課長 今回は用意してなくて、何で用意していないのかちょっと分かりませんけれども、いずれにしても用意していないので、今回はコメントを出す準備はないということです。

○記者 あと、新委員の杉山さんのほうなのですけれども、例えば直近3年間の原子力事業者の寄附とか共同研究とか、そういった数字というのは出せますでしょうか。

○黒川総務課長 今、手元には持っていないのですけれども、当然、原子力規制委員会の委員になるときに寄附の有無みたいなことは確認されているのだとは思いますが、今資料はないです。

○記者 それも例えば今日中にとかで出せるのですか。

○黒川総務課長 それは引き取らせてください。資料があるのかどうか分かりません。

○記者 分かりました。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、ヨシノさん。

○記者 山中さんの就任ですけれども、平成29年、2017年だったと思いますけれども、9月でいいのでしょうか。

○黒川総務課長 9月22日からです。

○記者 それで、こういう状況で選ばれたという方のコメントもないし、新しく選ばれそうな方の委員の経歴も全然出てこないというのは、準備不足も甚だしいのではないですか。

○黒川総務課長 略歴は、事実関係なので、一応、御希望の方には配る準備はしています。

○記者 あそこにいる人間、配ってくれない。後で配ってください。すいませんけれども、緊張感ないんじゃないですか。

○黒川総務課長 同意人事に関しては、我々というよりは内閣府のほうで人事を提示して承認するというものなので、我々が。

○記者 そんなことは百も承知ですけれども、5年前はもうちょっときちんと経歴とか資料が出てきました。私も思い出しました。先ほども調べましたけれども。5年たって緊張感が余りにもないので、すぐ準備してください。よろしくお願いします。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、カワムラさん。

○記者 朝日新聞のカワムラです。

細かい話なのですけれども、今回の同意人事案が承認された場合の、山中さん、杉山さん、それぞれの任期をもう一度教えてください。

○黒川総務課長 山中委員の任期が、新しくなりますので、令和4年9月22日から5年間。

杉山氏の任期は山中委員の残任期間になりますので、令和7年9月18日までとなります。杉山氏が就任されれば、任期は令和7年9月18日までとなります。

○記者 分かりました。

あと、国会人事とはあれかもしれないのですけれども、委員長代理は現状のままということになるのですか。その辺りはどうなるのでしょうか。

○黒川総務課長 委員長代理がどういう形で指名されているかを即答できないので、正式に任命という行為があるのか、あるいは事実上の指名なのかちょっと分からないのですけれども、今お答えできません。

○記者 では、後で教えてください。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、後ろの方、お願いします。

○記者 新潟日報、エンドウです。よろしくお願いします。

同じく国会同意人事についてなのですが、柏刈羽原発の追加検査が続いている中で、まだ終了期間も分からない中で、今回、先頭に立ってこられた更田委員長が退任される見通しだということで、任期満了ということもあるのかもしれませんが、改めてですけれども、続投をせず退任とすることとなった理由と、それと柏崎刈羽原発の追加検査に関して、今後、継続性をもって規制委員会として対応できるのかどうか、今回の人事で継続性がなくなってしまうのではないかという声もあると思うのですけれども、それに対してどうお答えなるかよろしくお願いします。

○黒川総務課長 任命の理由ですけれども、繰り返しになりますが、更田委員長は3期10年しっかり果たしていただきましたということでありまして、規制委員会の組織としての安定性、継続性を図る観点から、既に委員として重責を担っておられる山中委員に委員長になっていただきたいということを判断したと。判断というのは、我々がというよりは内閣で判断されたと考えております。

業務の継続性につきましては、引き続き、当然、代わられても変わらず、同じように続けるということに尽きていると思います。

○記者 お答えがよく分からないのですけれども、組織の安定性、継続性を求める観点からというのと、では、何で委員長を交代させるのかと思うのですけれども、もう一度お願いできますか。

○黒川総務課長 逆に、要は同じ人がずっと長くやられるよりも、交代しながら組織としての継続性を図っていくということであろうかと思えます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、カンダさん、二度目ですが、ほかはよろしいですか。

では、エムラさん、最初に。

○記者 読売新聞、エムラです。

どちらも数値とかの確認で、山中委員が令和4年9月22日から5年間。

- 黒川総務課長 これが、今2期目なのです。正確に言いましょう、最初に就任したのが平成29年9月22日なのです。その後、一回任期が終わりまして、その後、新しくまた任命されて、現状の任期が令和7年9月18日ということで、その任期を新しい方が引き継ぐということになります。
- 記者 ちょっと待ってください、委員長は9月22日から5年間という理解でいいのですか。
- 黒川総務課長 委員長ですよね。委員長は、任期満了が令和4年、今年の9月21日なので、5年間でそこまで。
- 記者 5年間で、杉山委員が、山中さんの委員の任期を引き継ぐ形で、令和7年9月12日までということになるのですか。
- 黒川総務課長 令和7年9月18日までです。
- 記者 18日までですね。
- あと、発足当初から委員をされているのは、今のところは更田さんだけですよね。
- 黒川総務課長 代わられればそうなります。
- 記者 代わられて、来年の9月の時点で一番長い人というのは誰になりますか。
- 黒川総務課長 今年の9月ですね。
- 記者 今年9月の時点で、一番長く勤めて、今度変わってしまうと、一番長い人というのはどなたですか。
- 黒川総務課長 それは、2人同時で、石渡委員と田中委員が2人同じ時期に就任されていて、平成26年、2014年9月19日に就任されています。
- 記者 石渡さんと田中先生ですね。ありがとうございます。
- 司会 では、カンダさん、2回目で、これで終わりたいと思います。
- 記者 2回目ですみません。時事通信、カンダです。
- 一応聞いておきますけれども、新しい委員の杉山さんなのですけれども、JAEAということで、規制委員会の共管の法人でもあり、また、規制の対象でもあるということなのですが、この点についての御見解というのはどのように受け止めていますでしょうか。
- 黒川総務課長 どのような業務をされていたかということでありまして、杉山委員、原子力安全の関係を一貫して担ってこられていて、今も規制対象の施設を管理しているということよりは、安全研究をされておられるということで、事業者としての立場ということでは遠いのかなと思います。
- 記者 後で略歴を見れば多分分かると思うのですが、過去の経歴的にも一切ないのか、それとも、例えば、どのぐらいきちんとした仕分けがあるのか分かりませんが、その部分は何か委員になるときに、身体検査ではないですけれども、経歴について、ここまで直近、これをやっていたら駄目だよみたいな判断基準というのはあったりするのでしょうか。
- 黒川総務課長 その具体的な人選の理由みたいなのは説明は避けたいと思いますけれど

も、経歴を見る限り、一貫して原子力安全の研究をされていますということであり
ます。

○司会 それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—